

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【I, IV, V】
2 実施対象者	古河市立総和南中学校 全校生徒452名（1年138名, 2年152名, 3年162名） 保護者参加者のべ10名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学級活動) ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、生涯スポーツの機運を醸成するとともに、生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。また多文化共生を学ぶことで、多様性を受け入れることができる生徒を育成する。
5 取組内容	<p>〔「オリンピック精神」の醸成〕</p> <p>○東京2020教育プログラム（国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」）を活用し、全校でオリンピックについて学習（スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び）し、参画意識を養う。</p> <p>○学校図書館にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置し、オリンピック精神の醸成を図る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>〔スポーツを楽しむ心の醸成〕</p> <p>○第1回オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 平成30年9月14日（月）13:30～15:30 ・場 所 総和南中学校 体育館 ・内 容 講演及びデモンストラーション（実技体験等） ・講 師 2012年ロンドンオリンピック銀メダル（男子60kg級） 平岡 拓晃 選手 

- 第2回オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会の開催
- ・日 時 平成30年11月2日(金) 14:00~16:00
- ・場 所 総和南中学校 体育館
- ・演 題 『異文化理解って何?』
- ・講 師 茨城大学教育学部教授
君塚 淳一先生



- 校内持久走大会を実施し、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図る。今年は、市内にある陸上競技場を使用することで、雰囲気も盛り上がった。

- ・日 時 平成30年12月7日(金)
- ・場 所 中央運動公園特設コース



- 生徒一人一人がどのように東京2020オリンピックに関わっていけるかを学級活動等で考えていく。

6 主な成果

- ・「オリンピック精神の醸成」については、学校のホームページに「オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進校」である旨の記事を掲載し、保護者や地域に向けて啓発活動を行った。さらに、学校図書館には、「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置し、関係書籍や国際地図を掲示し、生徒の興味関心に応えられるようにした結果、東京オリンピックを身近に感じられる生徒が増えてきた。
- ・「日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成」では、今年度初めて「多文化共生」をテーマに講演会を開催した。これからのグローバル社会の中で、生徒は様々な国々の方と交流しながら生きていくことになる。日本の伝統文化と世界の国々を比較し、多様性を受け入れることの大切さを学んだ。
- ・「スポーツを楽しむ心の醸成」については、オリンピックを招聘した講演会を開催したことにより、夢を持ってあきらめずにやり続けることの大切さなどについて学ぶことができた。生徒それぞれが部活動や普段の生活の中で、目標に向かって努力する姿が見られた。また、12月に開催された校内駅伝・持久走大会では、参加者全員が最後まであきらめずに走り抜くことができた。



7 実践において工夫した点(事業の特色)

昨年度は、オリンピックの講演会を中心に取組を進めてきたが、2年目となる今年度は、「多文化共生」というテーマにも踏み込むことができた。生徒たちが活躍するこれからのグローバル社会において、大切な視点を学ぶことができた。

<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックを招聘した講演等についての学びがより深まるように、生徒や保護者に、なぜ「オリンピック・パラリンピック教育」を推進していくのかについて、丁寧な説明や丁寧な事前学習をすることが大切であると感じた。 ・オリンピック（講師）の招聘等について、紹介してくれるコーディネーターがいるとありがたい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、これまでの2年間の取組を踏まえ、次年度以降も東京2020教育プログラムを活用したり、本校で講演していただいた選手の応援を続けたり、多文化共生を意識した生活をしたりすることで、さらなる機運の醸成や、生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てていく。</p>